

但州豊岡の城に一字を
造りて、円通大士の
影像を安置せしと聞ゆ、
かの南の岸に堂たててと
讚しも是に等しく、寿山
いよいよ高く、福海北に辺
なからむ事を歡喜
の余り、心裏のていを
著して、真前に
よする辞、

ただたのため

この五字凡

千々の秋

時に享保三戊戌の

とし亥月十八日

(京極高住)

入道大雲拝